ラオス・タイ旅行記

(首都ビエンチャン:その1)

戸田 順也

3月 4日~14日の間、ラオス(首都ビエンチャン、古都ルアンパバーン)とタイ(チェンマイ)を旅してきましたので、数回に分けてその報告をします。

今回は、ビエンチャンに到着の翌日分をまとめてみました。

ところで、「"ラオス"ってどこ?」「新聞などのツアー広告にはラオスのツアーなんか見たこと無いよね」「何故ラオスへ行くの」などという声が聞こえてくるような気がします。

そうです。ラオスというのは現在の日本ではあまりなじみの無い国で、報道にもほとんど現れることはありません。ご存じの方には釈迦に説法ですが、ラオスはインドシナ半島の中にあって、タイ・ベトナム・カンボジア・ミャンマーそして中国に囲まれた海の無い内陸国で、未だに社会主義国で、アジアでも最貧国の一つといわれている国です。先日テレビを見てましたら、国民の平均月収は4,200円ほどとか言っておりました。そんなラオスへ何故行くのか?確かに最近ではラオスのことを聞く機会はほとんどありませんが、我々が若いころにはベトナムは言うに及ばず、ラオスなどを含んだインドシナ半島での戦争が激しい頃で、毎日のようにこれらの国々のことが報道されていたことを記憶されている方も多いのではないでしょうか。ラオスに関して言えば、"パテート・ラーオ(ラオス共産軍)"などと言う言葉を耳にしたことがあるのではないでしょうか。そういった歴史をくぐり抜けて、未だに最貧国と言われながらも、街全体が世界遺産登録されているルアンパバーンを有するようなラオスに一度は行ってみたいとかねがね思っておりました。そして今回思い切って出かけたというわけです。

今回の旅に出かけるに当たって、一つ期するところが有りました。それは、旅行社が 用意するツアーに便乗するのでは無く、一人で(それも、バックパックを背負って)行 ってみたいということです。

「古稀の祝いをする歳になって、何故バックパックを背負って出かけるの?」と、また言われそうですね。そんな深い意味はありませんで、"若いときに、一度はやってみたかったバックパッカーとやらをやってみたい"という、単純な理由からです。この歳になって、40リッター以上のバックパックを背負って出かけることができれば、まだまだ自由に、そして安価に世界中を回れるのではないかなどと、淡い期待を少しは持っていますが。

前置きが長くなりましたが、そろそろ旅の本題に入りましょう。今回の旅行は飛行機の手配から、宿の手配まで全て自分で、そして自宅でやりました。今はインターネットを使えば何でも簡単(と言うわけでもないですが)にできますし、コスト的にも旅行社経由に比べると半額、いや場合によっては1/3程度で実現できるのですから、これを使わない手はないですよね。実際、今回もラオスへの入出国の際に利用したラオス国営航空の料金は、日本国内にあるラオス国営航空直営店に頼んだ場合に比べると、インターネットで直接申し込むと半額ほどですみました。但し、必要な場合のやり取りは英語を使ったメールでということになりますので、少し大変ですが。

今回の旅行のスケジュールは以下の通りです。

			Depart	Arrive			宿泊地	
1日目	3月4日	月	成田 CI107 台北 CI835	13:55	台北 バンコク	16:45		ビエンチャン
000	٥٩٠٦	de	バンコク QV0425	20:25	ビエンチャン	21:30		パーン ナ・ン
2日目	3月5日	火					市内観光	ビエンチャン
3日目	3月6日	水					市内観光	ビエンチャン
4日目	3月7日	木	ビエンチャン QV103	16:30	ルアンパバーン	17:15	市内観光 → ルアンパバーン	ルアンパバーン
5日目	3月8日	金					市内観光	ルアンパバーン
6日目	3月9日	±					市内観光	ルアンパバーン
7日目	3月10日	日					市内観光	ルアンパバーン
8日目	3月11日	月	ルアンパバーン QV635	13:10	チェンマイ	14:10	市内観光 → チェンマイ	チェンマイ
9日目	3月12日	火					市内観光	チェンマイ
10日目	3月13日	水					市内観光	機中
11日目	3月14日	木	チェンマイ CI852 台北 CI18	0:05 14:30	台北 04:35 成田 18:25		市内観光 → 帰国	

この旅行での日本出入国に利用する航空会社はチャイナ・エアラインを利用しましたので、往復路とも台北での乗り継ぎとなりました。

いよいよ出発日(3月4日)となりました。台北での乗り継ぎは飛行機の遅れもあり1時間ほどと短時間でしたが、到着と出発のゲートがすぐ近くであったため、思ったよりは楽な乗り継ぎとなりました。

無事次の乗り継ぎ地バンコクに着き、乗り継ぎ時間的には余裕があったのですが、ラオス国営航空の搭乗券を発券してもらう必要があり、チェックインカウンターを探したのですが該当すると思われるところには係員がいない。どうしたのかと他の航空会社のカウンターで聞いたら、まだ時間が早いので不在なのだろうとのこと。やむなく近くで軽食をとることにしました。時間を見計らってチェックインカウンターに向かったところ、係員がいたので予めインターネットで入手していたe-ticketを示したら、問題なく搭乗券を発券してくれ、成田からスルーでビエンチャンへ届くように手配したバックパックも無事のようです。一安心して搭乗時間を待つこととなりました。

飛行機への搭乗は予定時刻よりは少し遅れましたが、人数がそれほど多くはないので、

搭乗者全員を確認したのか出発予定時刻より少し早めに動き出して離陸となりました。バンコク~ビエンチャン間は1時間強で特段の問題もなくビエンチャン空港に到着、初めてのラオス入国でどうなることやらと思いましたが、全く問題なく入国の手続きも済みました。社会主義国とは言いながら、開放政策も進んでいるので観光客には寛容なのでしょう。後は、ホテルからの無料シャトルのドライバーとうまく会えるかどうかでした。でもビエンチャン空港は小さな空港でしたので、通関を終えて外へ出たら"TODA JUNYA"と大きく書いた紙を持った人がすぐ近くにいて難無く落ち合うことができ、ホテルにも予定通りに到着することができました。

翌3月5日が実質的旅行初日です。





ビエンチャンのホテル 設備類もたいしたことの ない安宿ですが、老齢バックパッカーには適当。 ベッドはキングサイズ で、何故か天蓋(?)用の 柱が四方にある。



ビエンチャンで最初に 訪れたお寺(ワット・イ ンペン)

(ちなみに、"ワット" というのは"お寺"の意 味)

最貧国にはふさわしく





ないような気もするが、 外国の要人を迎えるに は,やはり必要ですか ね。

迎賓館。





N_{0.1}



N0.2



N0.3



N0.4

ワット・シーサケッ ト

1551 年創建という。 現在も建立当時の原 形をとどめている。 2052 体の仏像が並 んでおり、回廊の壁 面に掘られた小さな 穴(龕 [ガン] 3420 個) には 2 体ずつの小さ な仏像が安置されて いる。

No.1:本堂 No.2:回廊

No.3,4:回廊に安置 されている仏像

No.5: 龕に安置され

た小さな仏像



N_{0.5}



道路はランサーン通りで、ビエンチャンでのメインストリートと言える。次回の報告で凱旋門上からの写真で交通量などの様子が分かるでしょう。

迎賓館からパトゥー サイ(凱旋門)方向を 望む





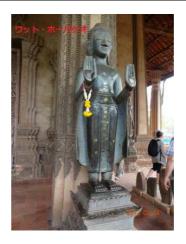
タラート・サオ・バ スターミナルはビエ ンチャン周辺の近中 距離バスが発着。 乗降客でごった返し ていた。

タラート・サオ・バスターミナルで見かけた日本国民からの贈り物(?)。 新車なのか中古なのかは不明。



バスターミナル近辺 の路上の野菜売り。 近郷の農民が売りに 来ているようだ。





ワット・ホーパケオ

ラオスには右側の写真のように、手のひらを前面に向けた仏像が多い。どこかでその意味を読んだ気がするが思い出せない。

ビエンチャンに遷都されたときにエメラルド仏を安置するために建立された(1563年)。1779年のシャム王国(タイ)の侵入で破壊されエメラルド仏も持ち去れ、1936年に修復されたとのこと。王の保護寺院のため僧侶がいない。

ここは、古くビエンチャンでも有名な寺院のためか観光客(外国人、 ラオス人)も大勢来ていた。また、本堂内は撮影禁止、そしてどこの寺 院も同じだが、本堂内へは靴を脱いではいることになる。 この日は、この他にラオス最大のマーケットであるタラート・サオにも行ってみました。このマーケットは日常雑貨・電気製品・携帯電話・その他あらゆるものを売っていて、昔のアメ横のようなイメージです。とにかく品物は豊富で何でもそろっている感じです。アジアでも最貧国の一つといわれている国なのに、この物量の多さはどうなんだ!という感じです。中古品的なものも勿論売ってはいますが、最新のカメラや携帯電話なども沢山並んでいるのには驚きです。ちなみに私が持って行った比較的新しいソニーのデジカメ用の電池も売っていましたので、値段を聞いてみたら日本と同じぐらいの言い値でした。2階は金・銀装飾品店のオンパレードでラオス人は金・銀が大好きのようです。そう言えば、どの寺院も金色に輝いているし、仏像も金箔を貼ったり、金色(黄色?)の布を肩から掛けていることが多いですよね。お客もけっこう沢山おりましたし、本当に最貧国なのでしょうかね。

昼食はナンプ広場のコープチャイドゥというレストランで食べましたが、麺のつもりで頼んだのが鶏肉のスープが出てきて、慌ててご飯を頼んだがこれがなかなか通じず一苦労。そう言えば、最初にウエートレスが「ご飯は?」といっていたような気がする。ラオスへ来て初めての外食でしたが、食事の選択がなかなか大変です。昼食代金はビール2杯、鶏のスープ、ご飯で64,000 KIP(約730円)、まあまあですかね。

それにしても、ビエンチャンの街を歩いていると西洋人が多いのに驚かされます。観 光ばかりではないようで、西洋人がラオスにけっこう注目しているのでしょうか。

夜は近くにクア・ラートというレストランがあることが分かったのでそこへ出かけました。フランス植民地時代の家屋を使った本格的ラオス料理のレストランです(店内の様子は右写真参照)。





食事を取りながらちょっとしたラオス民族 伝統舞踊を見ることができます(左の写真)。 (写真はフラッシュ無しで撮ったのでぼけち ゃいましたが、雰囲気だけは味わって下さい)



最後にデザートとして果物が出て、お茶も出るコースでしたが、果物(スイカ、パイナップル、洋ナシ他)は洋ナシ以外はあまり美味しいとは言えませんでした。お茶は"ティー"を頼んだのですが、見た目日本茶でしたが香料が入っていて慣れない私にはちょっと飲みにくい感じではありました。料

初心者向けのラオス料理セットがありましたので、それを頼んでみました(左写真参照)。8品の料理セットでやはり香料の強いものや、味があまり無いものもありました。ご飯は写真右側の竹で編んだおひつ(ティップ・カオ)に入っている赤いもち米でけっこう美味しく頂けました。



金は 130,000KIP(約 1,500 円)(セット料理と小瓶のビール)でしたが、ショー付きのコース料理なのでまあまあというところでしょう。